

## はじめに

個人的に尊敬する幕末明治期の探検家松浦武四郎まつうらたけしろうが、新政府の命を受けて踏査した『明治二年 東海道山すじ日記』の旅を追ついで蹤しようとして計画しました。吉田武三編『松浦武四郎紀行集』を読んで以来、富士川の吊橋や大井川の盪舟たらいふねなどに惹かれて、一度歩いてみたいと思っていました。幾つも記された峠越えの道は今どうなっているのだろうか、など興味は尽きません。二〇一〇年一月の静岡県への移住が良い機会となって、それが実現できることとなったのを嬉しく思います。

自動車の走る道路を延々と歩くのは好みではありません。私の軽自動車が行ける道幅があつて舗装されている部分は自動車で通過することとし、主に自動車の通れない部分を歩こうと決めました。林道であつても地道ならば、多少の距離を歩いてもひどい苦痛は感じないので、歩くことにしました。

◎『山すじ日記』本文の引用は、吉田武三編『松浦武四郎紀行集』によりました。

◎頻繁に引用する資料は略称を用いました。

・『明治二年 東海道山すじ日記』…………… 『山すじ日記』

・国土地理院発行二万五千分の一地形図 …… 『二万五千図』

・『正式二万分一地形図集成』…………… 『正式二万図』

・『濱つばら 全』…………… 『濱つばら』

◎引用文中、( )内の振り仮名や注は武四郎やその著者によるもの、「」内は校编者、解説者によるもの、【 】は広谷によるもの、【ママ】は原文のままという意味です。

◎引用文の旧漢字等は、原則として新字または一般的な漢字に改めました。

◎文中、「右岸うがん」とあるのは、川の上流から下流を見て右側の岸、「左岸」は左側の岸のことです。「右又みぎまた」は、逆に川の下流から上流を見て右側の支流、「左又」は左側の支流のことです。

◎お願い 出所を明記してある画像や地図等（「くより転載」「くより」等を含む）は、無断で複写・再利用しますと違法行為となりますので、複写・再利用の場合は、必ず提供元に許可を得てください。また、他書籍・他資料からの私の引用文には誤り等があるかと思ひますので、同箇所を引用なさる場合は、必ず元の書籍・資料をお調べください。なお、私の作成した画像・略図・文章などは、出所明記の上ご利用いただいで結構です。できましたら、その旨メールいただければ幸いです。

このページは、ハイキング等のガイドではありません。松浦武四郎愛好の方々に、いささか楽しんでいただくことと願つて作成したものです。その点をどうかご理解ください。現在廃道となっている箇所や危険箇所も多くあります。同じようなコースを歩かれて事故等に遭われましても、当方は一切責任を負いません。ど

うかがくれぐれも十分な準備の下、自己責任でお歩きになってください。

◎ 「広谷良韶のページ」トップページへ移動←

<http://www42.tok2.com/home/hirotani52/>

◎ 「東海道山すじ紀行」ページへ移動←

<http://www42.tok2.com/home/hirotani52/yamasuji/yamasuji.html>